

第415回番組審議会

1. 日時 平成18年11月21日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 14名

出席委員 9名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	副委員長	橋田 純一
	委員	和田 利彦
	委員	高橋 三男
	委員	帷子 利明
	委員	佐藤 晴久
	委員	増川 博之
	委員	嶋村 正
	委員	上野 克幸

欠席委員	委員	山本 玲子
	委員	梅村 俊男
	委員	千葉 則茂
	委員	西郷 喜代子
	委員	早瀬 藤二

社側出席者	矢後 勝洋 (代表取締役社長)
	石井 修平 (専務取締役)
	阿部 孝夫 (常務取締役)
	高橋 甫和 (取締役技術局長)
	千葉 正範 (営業局長)
	淵沢 行則 (制作局長)
	鈴木 直志 (報道局専任局長)
	遠藤 隆 (報道部専任部長)

事務局	青山 尚之 (編成局長)
	多田 清人 (編成局編成部専任部長)

4. 議 題

1. NNN ドキュメント ‘06

「ガンコ親父と7人の子どもたち」

10月22日(日)夜0時50分～1時45分

2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 資 料

資料として以下のものを配布

- ・視聴者からのご意見
- ・BPO報告

6. 議事の概要

社側説明

番組審議会の議題「NNN ドキュメント’06『ガンコ親父と7人の子どもたち』」は10月22日深夜に日本テレビ系列で全国放送し、11月4日に再放送しました。

委員側意見

- ・家族みんなで見たい良い番組だった。
- ・ガンコ親父が主人公だけど、いろいろみると奥さんの手のひらの中で生活しているのではないか。
- ・苦難の末に現在があるというプロセスを教えて欲しい。
- ・山地酪農のルーツを教えて欲しい。
- ・12年前に取材をはじめのきっかけや目的となったことがあれば教えて欲しいし、これからも継続して取材して欲しい。
- ・サブタイトルが「お母さんからのラブレター」となっているので、その点をもう少し掘り下げて貰いたかった。
- ・取材に当たって感じたことを聞きたい。

7. 審議内容

別紙のとおり

8. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

9. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」
(平成18年11月28日(火)午前11時50分～11時57分放送)で、審議の概要を放送。
- ・支社・支局に議事録を設置
- ・当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

〈議事の内容〉

事務局 番組審議会の議題「NNN ドキュメント'06『ガンコ親父と7人の子どもたち』」は、10月22日深夜に日本テレビ系列で全国放送し、11月4日に県内の皆様に午後2時から再放送しました。それでは委員長、宜しくお願いします。

委員長 それでは、ご意見を宜しくお願いします。

委員 最近いじめ、自殺、親と子、先生と生徒の関係が問われる事件が多い中で、考えさせられる番組でした。家族の生き方を見ていて、自分の家族の関係が、物質依存の家庭だと思いつく思いました。番組として、家族の真剣なやりとりが上手く捕らえられていて、かなり取材に時間をかけたのか、創りが自然な感じでいい番組でした。一方副題に「お母さんのラブレター」となっているが、上手く出来すぎていて、お母さんの意見がどれくらい反映されたのか気になった。また、お父さんの先生が「山地酪農」を提唱した方だと思いますが、この哲学についてもっと掘り下げてもらえば、お父さんのこだわりのルーツが繋がってくると思う。この番組には、いじめや自殺を減らすキーワードがあちこちに出てきた感じがした。12年前に取材をはじめたきっかけと、これから追って取材するかを聞いてみたい。

委員 今時このような家族がいるのかと衝撃を受けた。家族で見た番組だった。この家族の記録を12年前に企画した方は、当時何を目的にして、いかにしてこの家族を知ったのか、分かりにくかった。大自然の中で、身の丈にあった、家族が寄り添う生活の中で、今の多くの人達が、きっと望むべくもない、叶うべくもない想像上の生活と思われましたが、家族の在り方は、子供たちを育てて、それが、社会との関係を築くこととよく示されていた。ガンコ親父が山地酪農を、田野畑村で始めた理由が分からなかった。病院からは遠く、訪問者も多い牧場のようなので、緊急救急救命セットを常備しておく必要があるのではないかと感じた。

委員 長期にわたって入念な取材の番組で、NNNドキュメントに相応しい力作だったと思う。全編奥さんの独白書のナレーションで通したのも、押し付けがましくなくて、非常に効果的だった。お父さんがこういう思想に至ったのはどういう変遷があったのか、もう少し詳しく紹介しても良かったのではないかと考えた。山地酪農が全国的にどう位置づけられているか説明があればなお良かった。月収7円から始めて、今に至る成功の過程を示して欲しかった。

委員 私の美術館では、ここから毎週牛乳を買っていきまして、火曜日に配達に来ていま

す。その山地牛乳のパックには「大自然は厳しい父であり、やさしい母であり、田野畑のその父と母にいただいた山地酪農牛乳 心をこめてお届けできる幸せをありがとう」というキャッチコピーがあります。全編通してみると、一家は「感謝」という思いでいるのだなあと伝わりました。

どういう意図であの家族を追いかけたのか、創る人の思い入れが出てても良かったのではないかと。副題の「お母さんからのラブレター」ですが、母の思いに対する子ども達の反応が欲しかった。がんこ親父について全編出ていたが、それを支える母親の役割も紹介して欲しいと思った。また、販売先について東京方面はどうなのか、取り上げて欲しかった。

委員 番組としての出来は非常に良かったと思う。エピソードがよくまとめられていた。母親の語り口とされるナレーションも非常にしっとりとしていて、番組にあっていて。映像も非常にきれいだった。家族の絆という観点から見ましたが、子どもたちが大人になっても一緒に暮らせるというのはすばらしいことだと感じた。ガンコ親父ということでしたが、むしろ頼もしく成長した子供たちに甘えている感じがして、過去の苦しい生活を振り返ったり、彼らなりのこだわりがあるが、それもゆとりが感じられたし、ギスギスした感じがなく、生活にも精神的にもゆとりが出来てきたんだなあと感じた。シリーズで放送しているということでしたが、私は初めてみたので、過去のあらすじを簡単にリフレインして貰いたかった。

委員 家族の喜怒哀楽が、とても人間くさくて、胸に突き刺さるすばらしい番組だった。特に家族全員が食卓を囲んでいる食事風景と一家総出で仕事場で作業する風景がたくさん出てきているが、それがこの番組の背骨になっていた。12年間記録してきたことは、尊敬に値する。今の社会が必要としている家族像が、ドラマではなくドキュメンタリーで、テレビを通じて家庭に配信されたことは素晴らしいと思った。

委員 毎回ドキュメント番組は、取材が丁寧で、企画もいいと思ってきたが、その中でこれだけの感動を与えてくれるのは、素材の良さだと思う。家族の絆、家族の素晴らしさを、お母さんの目を通してナレーションされたのが、非常に心地良く、分かりやすかった。

委員 通年で自然放牧をするという思想は、本県の酪農は、北上山系開発というきわめて国家的なプロジェクトを行ったが、挫折している部分がたくさんあり、大規模化が破綻していく中で、酪農は工夫と努力しかない。現在は、牛乳は水よりやすくなっている。どうやって付加価値を付けて、経営を安定させていくかという戦い方だと感じた。家族のストーリーに、両親の結婚に至る交流の手紙が、子どもから見ると人生のしるべを示唆した感じで、生きた教育がされていると感じた。

この12年後も取材して欲しい。事業の拡大、家族の成長を考えさせられた。現在の家族像は軸が定まらず揺れ動いていると考えると、この家族は対照的に自立性と総合性が備わっていて、しっかりしている。

委員長 まとめますと

- ・家族みんなで見たい良い番組だった。
- ・ガンコ親父が主人公だけど、いろいろみると奥さんの手のひらの中で生活しているのではないか。
- ・苦難の末に現在があるというプロセスを教えて欲しい。
- ・山地酪農のルーツを教えて欲しい。
- ・12年前に取材をはじめたきっかけや目的となったことがあれば教えて欲しいし、これからも継続して取材して欲しい。
- ・サブタイトルが「お母さんからのラブレター」となっているので、その点をもう少し掘り下げて貰いたかった。
- ・取材に当たって感じたことを聞きたい。

社 側 12年間取材を担当しました。取材をはじめたきっかけは、当時私が農業問題を担当しいろいろ番組を制作していたときに、酪農家の方より「変わった家族が居るから取材してみたら？」と紹介を受けたのがはじまりです。山地酪農をしているのは、全国で5人しかいません。山地酪農に興味を持って取材をはじめたのですが、当初伺ったときより、子どもたち、孫と増えていったことで、テーマが農業問題より家族問題になっていきました。先ほどこのお父さんは、ある面計算高いのではないかとというご意見がありましたが、全くお金の計算が出来ない、喜怒哀楽が激しい単純な人で、奥さんをはじめ、子どもやお客さんなど周りの方々が支えてくれたように思います。山地酪農をはじめたきっかけは、お父さんが千葉県で生まれ育って、近くのマザー牧場に通ううちに、牛舎で牛を飼うのが可愛そうだと考えたようです。丁度その時に、なおはら先生が「山に放す」という昭和40年代では革命的な考え方を提唱し、その考え方に入り込んでいったようです。お母さんのメッセージは、200時間分の取材テープからお母さんのインタビューを基本にしてナレーションにしたので、お母さんの目線となりました。また、取材は継続して行きたいと思います。

委員長 他に何かありますか。では、事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございます。以上で番組審議会を終了いたします。